

太田フレックス高等学校

日本語指導が必要な生徒を支援する体制づくりの試み

《日本語指導を支える体制づくり ～「共生部」について～》

本校の授業時間が「90分」と長いことから、特に日本語指導に関する授業では、「アクティビティ」と結びつくような展開を心がけています。例えば、学校設定科目「日本語Ⅰ」の授業では、以下のような実践をしています。

〔学校設定科目「日本語Ⅰ」における活動の例〕

- ・「授業のルールを知ろう（マナー、持ち物）」
- ・「自己紹介をしよう（聞いて、他己紹介をしよう）」
- ・「自分の目標を立てよう」
- ・「校舎探検とマップ作り（先輩後輩でチームを組んで）」
- ・「そこへは、どう行きますか（説明をしよう）」
- ・「先生方にインタビューをしよう」
- ・「前期中間考査のルールを知ろう（○×クイズ）」
- ・「自分のテスト時間割を作ろう」

日本語指導体制づくりでは、「誰が指導するか」が一番の課題です。

高等学校の学習指導の基本は「教科担任制」です。学習指導の主体は「教科の教員」が担っていますが、この「日本語指導」には主体となる教科がないのです。

そして、「誰が指導するか」と関わる大きな課題が「何を指導するか」です。「何を教えるか」、「どのような授業を組み立てるか」を考えることが、日本語指導の体制づくりでは、とても重要なのです。

本校では、これらの課題に対応するために、次の取組を実践しています。

- ① 日本語指導の担当者を「校務分掌化」する（「共生部」の設置）。
 - ・「日本語」を担う主体を、教科でなく分掌と位置づけました。
 - ・自分の専門外の「日本語」を担当する負担を「1つの分掌」と考えることにしました。
- ② 「共生部」の会議を毎週定例化
 - ・議題には「この間の授業はどうだった？」や「次の授業をどうする？」といった授業案の検討に充てました。
 - ・どの先生が担当になっても実践できるよう、指導案や使用プリントなどを蓄積しています。

